

学校 教育 目標	「みつめる かかわる かんがえる」 1 学びを楽しみ、考えを深め、たくましく生きる子を育てます。【知】 2 仲間を大切に、正しい判断をする力と思いやりの心を育てます。【徳】 3 元気な身体と心で、健康を守れる子を育てます。【体】 4 地域や自然とつながり、豊かなかかわりをもてる子を育てます。【公】 5 多様性を尊重し、望ましい共生社会を創る子を育てます。【開】				
学校 概要	創立 137 周年	学校長 古屋 澄人	副校長 佐野 美秀	2 学期制	一般学級：7 個別支援学級：5
	児童生徒数：215 人	主な関係校：十日市場中学校、三保小学校、十日市場小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	十日市場中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分で考えて判断する力〉 〈相手を理解し、協力して生きる力〉	十日市場中学校 十日市場小学校 三保小学校 新治小学校	自他を大切にしながら、地域や人との関わりの中で、自ら進んで学び、積極的に社会に貢献する子ども。 ・キャリア教育 ・言葉遣いやジェンダー等に対する指導 ・地域行事へ参加 ・小中学校相互の授業参観や生徒会等の交流

中期 取組 目標	○一人ひとりに寄り添い「教育課程全体で育成を目指す資質能力」を最大限に伸ばすため、下記10項目の具体的取組を進めます。 1年目：取組の実践と改善点の洗い出し 2年目：改善をはかった取組の検証と修正 3年目：取組の定着 ○3ヶ年を通し、新治の豊かな自然環境や地域との関係性を生かしながら、わくわく(横浜の時間)等を活用し、探究的な学びの取組を通して深い学びを実現し、子どもたちの社会情動的コンピテンシー(特に①メタ認知・②知的的好奇心)や豊かな感性を育てます。 ○3ヶ年を通し、教育の質の向上のため「教職員の指導力向上」「働き方改革」「チームによる学校運営」を進めます。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	学習指導	○個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指した取組(少人数指導、端末の効果的な活用、グループ学習)や学習環境の整備を推進する。○新治の自然や地域の人材を活用し、主に生活科や「総合」の時間で、探究的な学びに取り組むことで質の高い深い学びを実現する。
担当	教師力を高める委員会	
徳	人権教育	○YPを積極的に活用し、集団作りや自分づくりを行う。○年2回のあいさつ運動やクラスでの声かけを通し、仲間とのつながりの大切さを学ぶ。○全教職員による児童の実態把握の共有や人権研修を行い、より良い言語環境を整える。○人権教育を柱にし、多様性を尊重する道徳教育を実践し人権週間につなげる。
担当	規範意識を高める委員会	
体	健康教育	○学校保健委員会を中心とし「心の健康」や昼食後の歯磨き指導の継続。○栄養士や外部専門家の出前授業等による、食育教育を充実させ、自らの健康保持や増進につなげる。○年間を通し体力づくりの取組(なわフェス等)を行う。
担当	規範意識を高める委員会	
公 開	地域連携	○地域(里山交流センター、水辺の楽校、新治市民の森愛護会等)・行政(横浜市繁殖センター、環境科学研究所の方々)と連携し、新治の豊かな資源や材を活用して、未来を創る子どもの育成を図る。
担当	生き抜く力を高める委員会	○地域コーディネータと年間活動計画を共有し、連携を深め、事前事後の打ち合わせを密に行う。
いじめへの対応		○児童の実態把握として、最低年間2回のYPアセスメントやいじめアンケートを実施し、結果を全教職員で分析・共有をする。○クラスの分析結果から考えられる横浜プログラムの実施。○いじめが疑われる場合は、担任、専任、管理職で情報共有をし、組織的な対応を行う。○SCやSSWなどと連携し、児童・保護者支援の充実を図る。
担当	児童支援専任	
人材育成・ 組織運営(働き方)		○各校務分掌(AB研、学年研など)でチーム制を取り入れ、一人で抱え込まない風土づくりを進める。○ミライムやすぐる、Teamsなどのグループウェアや、生成AI、デジタルドリルの活用等による業務負担軽減の取組を推進する。○メンター研修を年間計画に位置付けるなど、計画的な研修ができる環境づくりを進める。
担当	教務部	
学校運営協議会 (はぐくみ運営協議会)		○全教職員参加型学校運営協議会(年間4回中2回を全教職員参加)を実施し、顔と顔をつき合わせた関係作りを行う。○はぐくみ委員による授業参観の実施(年1回)する。○給食の試食会や校内の見学などを実施し、より良い学校運営のための施設の改善等について意見をいただく。
担当	教務部	
特別支援教育		○特別支援教育研修を全教職員で実施する。○合意形成に基づいた個別の支援計画・指導計画の作成と活用を進める。○特別支援教室の体制を再構築し、利用児童の基礎学力の定着を図る。○通級や療育との連携を図り、校内の指導に生かす。○社会参加を目指し、個別支援在籍児童の個別カリキュラム編成する。
担当	特別支援教育コーディネーター	
情報教育		○情報教育年間指導計画を作成し、6年間を見通して情報活用や情報モラルの力の育成を目指す。○情報機器の拡充、整備をし、児童が情報機器を利用して学習する環境を充実させる。○講師を招請し、情報活用能力にいたる研修を実施し、質の高い学びの実現につなげる
担当	情報部	
自分づくり教育 (キャリア教育)		○自分の未来を切り開くために、地域連携による職業体験の充実を図る。○縦割り活動での異学年交流を通して、新治の仲間意識や自己有用感を育み、リーダーシップ高めることで、社会情動的コンピテンシー(特に①メタ認知・②知的的好奇心)を養う。
担当	生き抜く力を高める委員会	